

京田辺市歴史資料共同調査報告会と市民 ボランティア

東 昇

2014 年度から地域貢献型特別研究費（ACTR）の事業として、「京都歴史資料の調査・活用・公開―舞鶴幼稚園と京田辺市―」（代表：東昇）の調査と研究を実施している。

京田辺市教育委員会の提案は、市に寄贈された近世近代歴史資料の整理を行い、報告書を共同で刊行し、この事業を契機として市史編纂、文化施設へ展開したいという内容であった。今年度は、歴史資料共同調査（井上真美報告）、共同調査報告会、歴史資料整理ボランティア事業を実施し、さらに京田辺市は文化振興計画を策定予定であり、本 ACTR の調査成果が活かされることとなった。

研究体制は、歴史学科の横内裕人が研究分担者となり、これに京田辺市教育委員会教育総務室の松本勇介が研究協力者として加わっている。

1. 京田辺市・京都府立大学歴史資料共同調査報告会

この報告会は、2015 年 10 月 4 日、京田辺市教育委員会・京都府立大学文学部主催、京田辺市社会福祉センター第 1 研修室で開催された（写真 1）。昨年度の歴史資料調査の成果報告と、「京田辺市の歴史を語る」パネルディスカッションとの二部構成であった。

第 1 部調査報告では、昨年度の調査成果をもとに、松本勇介（京田辺市教育委員会）「歴史資料共同調査について」、竹中友里代（京都府立大学特任講師）「近世佐牙神社の祭り」、東昇「近世江津村の検地帳と頼母子講」を報告した。第 2 部パネルディスカッション「京田辺市の歴史を語る」では、コーディネーター鷹野一太郎（京田辺市教育委員会）、パネラー東昇・竹中友里代、林正（薪区文化委員会委員）、上村公則（元田辺町総務課近代誌編さん係）によって行われた。これまでの京田辺市の歴史資料調査、近代誌編纂事業、薪地区での活動について報告いただき、今後の調査方針を検討する上で大変参考となった。当日の参加者は 80 人をこえ、市民の方から様々な質問や意見をいただき、活気ある報告会であった。なお、本報告会については、京都新聞・朝日新聞に掲載された。

2. 歴史資料整理ボランティア

昨年度実施した市民ボランティアと学生の歴史資料の共同整理作業に続いて、今年度は歴史資料整理の方法を学びながら、資料整理ボランティアに携わる事業を展開した。市民へのボランティア募集のチラシが市内に広報され、京田辺市役所会議室で行われた計 3 回の資料整理に毎回約 20 人が参加した。第 1 回は、2015 年 11 月 13 日、まず東昇が歴史資料の整理、写真資料の整理法について講義を行った。つぎに京田辺市が所蔵する大正・昭和期の写真雑誌『歴

史写真』を、各人が選定しその内容について目録を作成した。第2回は、2015年12月4日、竹中友里代が地域に残る写真について講義を行い、同じく『歴史写真』の目録作成、第3回は、2016年1月8日、『歴史写真』の目録作成の他、参加者が所蔵する地域写真・歴史資料を持ち寄り、内容の検討を行った（写真2）。地域歴史調査の基本である、市民が自らの資料を、自らの手で整理していく活動を、大学の研究者がどのように参加、支援していくか、その契機となった重要な事業であった。

以上の歴史資料の調査については、来年度以降に報告書を刊行する計画である。今年度は、その準備として資料の目録、翻刻、解題などをまとめた。また歴史資料の調査成果として、京田辺市を含む南山城地域（八幡市）の寺院歴史資料の報告書、『京都府立大学文化遺産叢書』10号を刊行することができた。歴史・地理的に密接に関連する八幡市の歴史調査は、京田辺市にとっても重要であり、今後の調査研究への活用が期待できる。



写真1 京田辺市・京都府立大学歴史資料共同調査報告会



写真2 第2回歴史資料整理ボランティア